

事例研究報告

**特別支援学校高等部生徒が
自分で活動スケジュールを管理し、
忘れず行動できるための取組**

生徒の実態

- ・発達障がいのある高等部生徒
- ・コミュニケーションの実態：
 - 他の人との関わりをできるだけもちたいと思っている。
 - 他の人のために役に立ちたいという気持ちが強い。
 - よく気がつき、手伝いを申し出してくれる。
 - 疲れてくるとイライラすることがある。
 - 困っていることや分からないことは、積極的に質問できる。
 - 冗談を言うこともあるが、他の人から言われた言葉は字義どおりに捉えて、冗談かどうかの判断ができないことがある。
 - 細部にこだわる傾向があり、作業が遅れたり、指示を聞き逃したりすることがある。
 - 正しいと思ったことや、考えたことをそのまま言葉にしてしまい、周囲の人と気持ちの温度差ができ始めている。

保護者の願い

自分で考えて、テキパキと行動してほしい。

他の人に迷惑をかけず、自立してほしい。

衝動性をもう少し抑えたい。

教員の願い

困っていること、うまくいかないことを1つずつ解決したい。

メモしたこと、指示されたことを忘れず、自分で確認しながら取り組めるようになってほしい。

指導目標

登校してからSHRが始まるまでに、言葉かけなしで
身支度や身の周りの整頓等ができる。

指導目標の現状の記録

- ・本人のスケジュール帳に必要なこと、すべきことをメモすることで記憶に留めるようにしているが、あまり効果はないため、結局言葉かけが増えている。
- ・4月からの1ヶ月半の間に言葉かけを行ってきたことで、本人がどのくらい自発的に行動できているか、6月から記録し始めた。

校内での話し合い

朝の活動の項目の変更

・「机の中のファイルをロッカーに戻す等机の周りを整頓する」という項目を、「机の上を整頓する」に変更した

→本来は毎時間行う作業であるため、朝の活動の項目から削除した

アドバイザーの助言内容

・チェックシートの作成

- 1人でもれなく準備ができることが目標なため、「シートを見て、もれなく1人で準備する」練習をしてはどうか？
- シートで上手いかなければ、別の方法を考える

・チェックシート項目の並びかえ

- 動線を意識した順番にすることで、効率よく動け、やり忘れを防ぐことができる

助言を受けての見直し

- (1) 動線に沿うような順番で、チェックシートを作成する
- (2) 1週間ごとに成果状況を確認できる「振り返りシート」を作成する

指導の手続き

(1) 動線に沿うような順番で、チェックシートを作成する

- ・朝のSHRまでに終えてほしい項目を列挙
- ・生徒が登校してからの動きの順番を確認
- ・完了したらチェックできるシステム

登校してからのスケジュール 朝のSHRまでにすることリスト

	自己チェック	順番を変更
1 窓を開ける	✓	
2 扇風機をつける		
3 かばんをおろす	✓	
4 弁当・水筒をロッカーにおく	✓	
5 スケジュール帳を出す	✓	
6 提出物をだす	✓	
7 洗濯物をたたむ、もしくは着替える		
8 制服をかける		
9 ハンカチをポケットに入れる	✓	
10 鏡でヒゲをチェックする → そり残しあるときはそる	✓	
11 机の上を整頓する	✓	
12 クイックルワイパーで床を掃除する(教室と廊下)	✓	

朝のSHRが始まるときに、机に出しておいてください。

指導の手続き

(2) 1週間ごとに成果状況を確認できる「振り返りシート」を作成する

- ・週末に、本生徒と振り返りの時間を設定

1週間の結果

月	火	水	木	金
	0			0
	<hr/>			
	0			0
	0			0
	0			0
	0			0
	0			0
	<hr/>			
	0			0
	0			0
	0			0
	0			0
	0			0

振り返り

記録方法と記録

- ・朝の準備の項目（全8項目）の達成率を毎日記録
- ・達成率の定義

$$\text{達成率} = \frac{\text{○の個数}}{\text{実施すべき項目}} \times 100$$

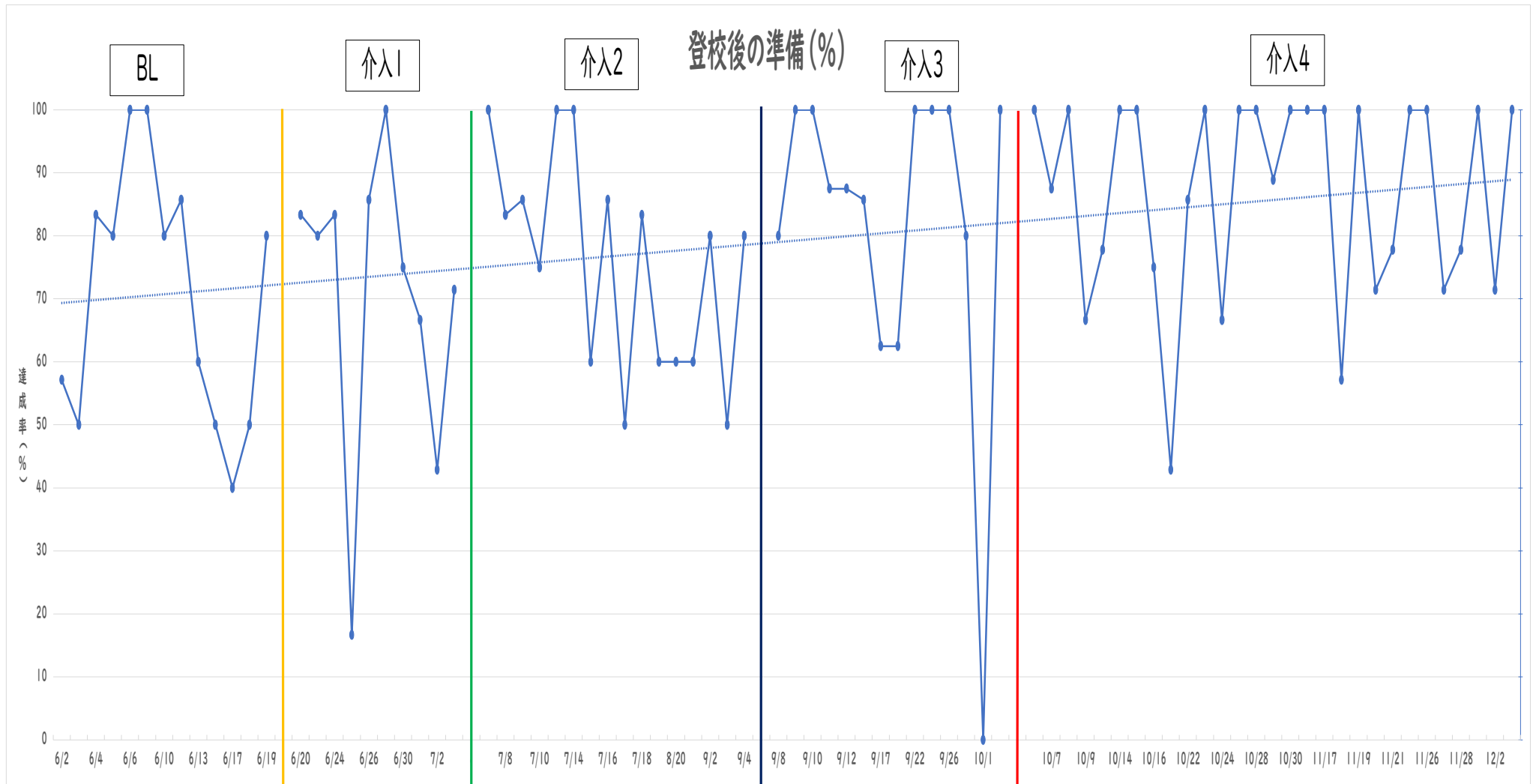
- ・言葉かけなしでできた項目のみ○
（教員の言葉かけでできていても無効）
- ・10月6日～「⑨フロアワイパーで床を掃除する（教室と廊下）」を追加
→全9項目で達成率を記録

記録方法と記録

〔朝の準備の項目〕

- ①スケジュール帳を出す
- ②提出物を出す
- ③洗濯物をたたむ
- ④着替える
- ⑤制服をかける
- ⑥ハンカチをポケットに入れる
- ⑦鏡をみてヒゲをチェックする→そり残しがあるときはそる
- ⑧机の上を整頓する
- ⑨フロアワイパーで床を掃除する(教室と廊下)

指導前後の記録



介入1:項目変更

介入2:チェックリスト導入

介入3:振り返りシート導入

介入4:項目に「掃除」追加

指導の成果

- ・朝の活動の達成率が、6月は70%程度であったが、12月は90%程度まで上昇している
- ・達成できる日とできない日に偏りがある

[考えられる原因]

① 周りの生徒の影響

→ 気になって活動に集中できない

② 本生徒の精神面の状況

→ 初めての現場実習が不安で、登校が遅くなったり、
トイレに籠もったりする

→ 朝の活動が充分にできない

具体的な相談内容

●生徒本人は、チェックしながらできるほうが落ち着くと言うが、将来的にはどのような方法に変換していくべきだろうか。

(9月からスマートフォンを持っているが、アラーム等を使うことを嫌がる)

●生徒本人は「書いて貼っておくとできることが多い」とよく言っている。家庭でも自分の部屋では、忘れないように自分で書いて貼っているらしい。そのように視覚的に常時確認でき、就職後も継続して取り組める方法はあるだろうか。

アドバイザーの助言内容

・複数の方法を提示する

→教員が仕掛けづくりをすることで、本生徒自身が考えながら、試行錯誤して取り組めるようにすることが大切である

・「こうすればできる」を伝える

→本生徒は、「書いて貼っておくとできる」ことを自分で気づくことができている

→企業では合理的配慮が義務化しているため、「こうすればできる」を伝える練習をしたり、教員が企業に伝えたりすることが大切である

ここが成功のポイント

- ・チェック表を1週間ごとに振り返り、生徒の気づきにつなげることができた。
- ・生徒からの『〇〇したらできる!』を実践してもらい、見守った。
- ・途中から清掃活動を取り入れ、できた日はカレンダーにハンコを押すようにしてから達成率が上がってきた。